



目的に向かっていく努力

特許庁が定めた「日本の十大発明家」について知る機会がありました。

- 豊田 佐吉……1891年 木製人力織機の開発（トヨタ自動車創業者の父）
- 御木本 幸吉…1896年 養殖真珠（ミキモトパール創業者）
- 高峰 譲吉……1901年 タカジアスターゼの発見、アドレナリンの結晶化
- 池田 菊苗……1908年 グルタミン酸ナトリウムの発明（味の素開発につながる）
- 鈴木 梅太郎…1911年 ビタミンB1の発見、ビタミンAの抽出
- 杉本 京太……1915年 邦文タイプライターの発明
- 本多 光太郎…1918年 K S鋼（永久磁石鋼）の発明
- 八木 秀次……1926年 八木アンテナの発明（地上波放送受信用アンテナ）
- 丹羽 保次郎…1929年 写真伝送方式の発明（現在のFAXの基礎）
- 三島 徳七……1932年 MK磁石鋼の発明（現在のパソコンでも使用）

日本の特許制度が100周年を迎えた1985（昭和60）年に、歴史的な発明者の中から永久にその功績をたたえるのにふさわしい方々を選定し、選ばれた10名です。その後もたくさんの方が発明家や科学者が誕生し、ノーベル物理学賞・化学賞・生理学医学賞などを受賞した日本人は、24名になります。

少し前になりますが、2014年に青色発光ダイオード発明でノーベル物理学賞を受賞した中村修二さんの本の中に印象的な言葉を見付けました。「できないことを証明することはとても難しい。できない理由を考えるより、どうしたらできるかを考える。」というものです。中村修二さんは、独学で研究をし、部品の調達から研究機材の作成まで自身で行い、最終的には赤色・青色発光ダイオードを発明されました。何年間も失敗の連続でしたが、「〇〇がないからできない。」ではなく、「自分がやりたいことは〇〇だ。そのためには〇〇が必要だ。」という姿勢で、自分の目的に向かって試行錯誤を繰り返し、ノーベル賞を受賞するような発明に結びつくことができたそうです。

学校ではどのクラスも新学期になると子どもたちにめあてを決めさせます。しかし、めあてを決めると、それで終わってしまう子も見られます。そのため、子どもたちにはめあてを立てることが目的ではなく、めあてを達成するための過程が大切だと普段から伝えています。そして自分で決めためあてを実現するために、諦めずに何度も挑戦する粘り強さや、様々な方法を試してみる柔軟さを子どもたちに身に付けさせたいと思っています。偉業を達成すること、優れた結果を出すことだけでなく、目的に向かっていく努力を今から大切にしてほしいです。

10月9日は城南小学校で開催される体育発表会です。短距離走と表現種目を保護者の皆様に見ていただきます。特に表現種目では、子どもたちは毎日、練習に励んでいます。「一度できなくても、できるように努力することが大切。諦めずに繰り返し練習しよう。」と、担任から伝えています。表現活動が好きな子ばかりではありませんが、一人一人が自分の目標に向かっていく姿は素敵です。体育発表会当日だけでなく、それまでの子どもたちの努力にも目を向けていただき、当日を楽しんでいただければと思います。

感染症は、城南小学校内では広がっていません。保護者の皆様のご努力に感謝申し上げます。子どもたちが学校生活を安心して送ることができるよう、引き続き、ご家族全員の健康観察など、ご協力をよろしくお願いいたします。

10月の生活目標

丈夫な体をつくりましょう。

10月の主な予定			11月の主な予定		
1	金	都民の日（休業日）	1	月	TGG4年 委員会活動
2	土		2	火	社会科見学4年
3	日		3	水	文化の日（祝日）
4	月	委員会活動 清掃なし	4	木	茶道3年
5	火		5	金	茶道4年
6	水		6	土	SHINAGAWA GLOBAL DAY ラグビー4年
7	木	体育発表会事前写真撮影	7	日	
8	金	午前授業	8	月	
9	土	体育発表会 5時間授業	9	火	ドリームジョブ6年
10	日		10	水	江戸切子3年
11	月	振替休業日	11	木	
12	火	体育発表会予備日 安全指導	12	金	
13	水	避難訓練	13	土	
14	木	歯科（1・3・6年）東海G研究授業（音楽）	14	日	
15	金	学校公開 学校説明会（10：40～）	15	月	社会科見学5年
16	土	学校公開 学校説明会（9：35～）	16	火	
17	日		17	水	研究授業2-1
18	月	市民科授業地区公開講座	18	木	就学時健診
19	火	生活科見学（1・2年）	19	金	
20	水	クラブ活動 たてわり班顔合わせ	20	土	東海道歴史探訪6年
21	木	歯科（2・4・5年）	21	日	
22	金		22	月	
23	土		23	火	
24	日		24	水	クラブ活動
25	月	たてわり班清掃始	25	木	
26	火		26	金	地域班一斉下校
27	水	自転車シミュレータ（3年）校内研究授業3-3 東海G研究授業（図工）	27	土	
28	木	生活科見学予備日（1・2年）	28	日	
29	金	東海G研究授業（市民）	29	月	委員会活動
30	土		30	火	社会科見学3年
31	日				

4年2組担任の堀内美香主任教諭が入籍いたしました。仕事上の氏名の変更はありません。

メディアセンター(学校図書館)より

図書教育担当

学校図書館(メディアセンター)は、図書の時間以外の休み時間にも子どもたちでにぎわいます。たくさん子どもたちが、図書バッグを抱えて、新しい本を借りに来ています。

メディアセンターは、1階にあります。図書館スタッフが、季節にちなんだ本や、おすすめの作家さんの本を紹介するコーナーを用意していたり、本校の卒業生「村岡花子さん」のコーナーなどの展示も工夫したりしています。1学期の一人当たりの図書の貸し出し数の平均は、低学年が25冊・中学年が30冊・高学年が15冊となっています。さらに多くの子どもたちの利用を目指し、いつでも行きたくなるメディアセンターにしていきます。



体育発表会について

運動会委員長

今年度、5年ぶりに城南小学校の校庭で体育発表会を開催することになりました。子どもたちも教職員も新しい芝生で開催できることを心待ちにしていました。新型コロナウイルスがまだまだ流行していますが、タブレットを活用したり、人数が多い学年は2つに分けたりするなど、工夫をして感染対策をしながら練習に取り組んできました。こども達は、本番までの残り少ない時間の中、1時間1時間を真剣に取り組み、一生懸命練習をしています。様々な行事が縮小される中、子どもたちの思い出に残る体育発表会にしたいと考えています。保護者の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願いします。

各学年、短距離走と表現運動を行います。どの学年も子どもたちがこのコロナ禍の中、どうすればより高い充実感を得られるかを考えながら準備しています。

詳しい時程などは、体育発表会のプログラムをご覧ください。子供たちの練習の成果、いきいきと運動に取り組む姿をぜひご覧ください。



6年生 組体操



6年生による応援団

城南小学校避難訓練について

生活指導部 避難訓練担当

学校では毎月1回、全校での避難訓練を行います。避難が必要となる場面としては、地震、火事、津波、台風、不審者の侵入など、様々な自然災害や事故・事件が考えられます。そのため、一年間の中で様々な想定を変え、それぞれに応じた避難の仕方を学習し、身に付けられるよう計画しています。

例えば地震が起きた時は、すぐに机の下にもぐり、頭を守りながら揺れが収まるまで静かに待ち、放送や教師の指示に耳を傾け、次の行動に備えます。軽い地震ならば教室内での人数確認だけで済みますが、続いて火災が発生することもありますから、校庭や近隣のお寺の境内への避難も練習します。素早く2列に並ぶこと、防災頭巾をかぶりハンカチで口を覆い、集団で列をなして歩くことにも繰り返し練習が必要です。

火事の訓練では、出火元を給食室、理科室、家庭科室、幼稚園、近隣の地域の火事などに変えます。すると、どの廊下・どの階段・非常口を使用すれば安全に避難できるか、経路も違ってきます。

しかも、地震や火事は授業中に起こるとは限りません。休み時間や、放課後のすまいるスクール、登下校中など、指示を出してくれる担任の先生や大人が近くにいない時には、子どもたち自身が判断し、素早く行動に移さなければなりません。年度の終わりに向かって、予告なしの訓練を実施するなど、次第にレベルアップした訓練内容にしていき、自ら考えて避難できる判断力や行動力を育てていきたいと考えています。

また、不審者の侵入に備えた訓練では、犯人役に扮した警察の方と対峙して、教員がどのようにして子どもたちを守る行動をとるか、実践的な指導もいただいています。

約600名もの児童が一斉に大移動を開始する避難訓練。「訓練だから」といい加減な気持ちではなく、「お・か・し・も」の約束を守り、一人一人が真剣に臨むことが大切であることも、繰り返し子どもたちに伝えていきます。

「お・か・し・も」
お…押さない
か…駆けない
し…しゃべらない
も…戻らない

ファミリールール講座について

5年担任

9月5日に、5・6年の児童・保護者を対象に、親子でSNSトラブルを回避するための、スマホなどの適正な利用の仕方を身に付ける講座「ファミリールール」を行いました。例年では、体育館に集まって親子で話を聞いていましたが、今回はZoomを使い、子どもたちは教室から、保護者の方にはご家庭から参加していただきました。

今や、私たちの生活になくてはならないものとなっているインターネットやスマートフォン。スマートフォンのスマートの意味である「賢く、かっこよい」使い方をしていくために、情報機器に意のままに操られるのではなく、私たち自身が ①時間をコントロールする ②コミュニケーションをコントロールする ことが大切であるというお話を聞きました。特に友達とのSNSでのコミュニケーションでは、ちょっとした「言葉」の使い方によって相手に誤解をされることもあるという現実を知り、言葉の使い方には十分気を付けることが重要だという事を改めて知りました。一年後にどう変わるか、パワーアップできているかを念頭に置きながら ①何に一番時間を使っているか ②その時間をちょっとだけ別のことに使うとしたら何が出来るか を中心に親子で一緒に話し合うことが大切だという事です。5.6年以外のご家庭でも是非、ご家庭でも話し合ってみてください。